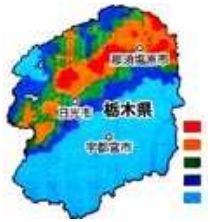
放射能から子どもを守り
１人の被ばく者も出さない

〈日光･放射能から子どもを守る会〉2012.04.06//no.24

除染計画！続く誤魔化しの連鎖！！
放射能の危険を隠し続ける 日光市



赤10～30万,黄6～10万
緑3～6万、紺1～3万
水色～1万 ベクレル/㎡

地表面セシウム汚染地図
2011.08. 02現在換算値

（μSv/h // 毎時マイクロシーベルト）

日光市は、今回、政府の除染計画(毎時0.23マイクロシーベルト以下)で、やむなく3月30日除染計画発表です。斎藤市長は「**市民の安全、安心を考え、市独自の対応を盛り込んだ。取り組みを重ねることで、観光客の安全、安心も確保していきたい**」と発言。

＊　＊　＊　〈*地上9m屋根つきの場所で測定〉

❑市民の安全、安心を考え>>>これまで何度も安全と言ってきて、危険だったんですか
＊昨年4月1日「修学旅行生保護者に向けた観光安全PR」〈前日平均0.315μSv/h*〉
＊「子供達が屋外で通常通り活動している姿を見てもらうことが安全性理解に効果的」
＊4月6日、「日光市観光安全宣言」〈前日平均0.257μSv/h*〉
＊4月15日、「再度の観光安全宣言」〈前日平均0.20μSv/h*〉
＊9月22日〈日光市チラシ〉、約0.10～0.20μSv/h程度で推移。普段通りの生活を！
＊10月の市内全域線量測定で、「9割は0.4未満」『安心して生活できる』との認識
＊日光市教育委員会、「1μSv/h以下なら、学校生活、屋外活動でも問題ない」
❖日光市の子どもたち市民の置かれている放射線汚染実態と現実!?
＊5月、県の測定/0.2μSv/h以上の市内小学校は88%（26校中23校）
＊10月の市内全域線量測定で、0.2μSv/h以上が71%
＊現在、日光市の小学校などは那須塩原市、南相馬市、福島市より高線量（前号参照）
❑市独自の対応を盛り込んだ>>>昨年もその言葉で誤魔化してきましたネ！
市独自なら、なぜ、昨年、実施しなかったんですか。住宅の測定はしていません。
❑取り組みを重ねることで>>>引き延ばし、引き延ばし作戦ですネ！
「計画は、来年3月までを1期として･･」数年かけ、線量が落ちるのを待つんですか！
❑観光客の安全、安心も確保していきたい>>>これ、日光は危険地帯と認めた発言！
これからの除染対策が完了すれば、観光客にも安全、安心が確保される！？

風が吹くときは
マスクをしよう!!
布団干し、洗濯物は室内で

風の吹く日は、地表の放射性物質をまきあげ、それを吸い込むことになります。身体に入ると内部被ばくの危険が高まります。また、布団・洗濯物に放射性物質が付いては困ります。チョッとの注意の心がけを！

日光市の該当するゾーンは？

❑チェルノブイリ･ゾーン　❑〈1999.ナスビット論文より〉

① 移住義務ゾーン	5mSv/年以上
② 移住権利ゾーン	1 mSv/年以上
③ 放射能管理強化ゾーン	0.5 mSv/年以上

②移住を希望すれば資金など支援。
③厳重な放射能汚染対策を実施する地域。
❖年1mSv/時0.114μSv/公衆被ばく限度基準/ICRP
*内部被ばく含まず、成人対象/妊婦、乳児など敏感無視

❑ 政府の放射能除染基準//毎時0.23μSv ❑
〈日常生活で8時間以上屋外活動禁止が前提、* など〉
❑栃木県原発崩壊前//0.038～0.044μSv/h❑

日光市放射能汚染分布

2011.10.03-12 調査/日光市
測定地上50cm
マイクロシーベルト/以上～未満

0.1未満	1ヶ所	0.2%
0.1～0.2	155ヶ所	28.8%
0.2～0.3	187ヶ所	34.8%
0.3～0.4	152ヶ所	28.3%
0.4～0.5	30ヶ所	5.6%
0.5～0.6	10ヶ所	1.9%
0.6～0.7	2ヶ所	0.4%
0.7～0.8	1ヶ所	0.2%

〈News〉日光市は「水」も「空気」も「食べ物」も安全でした〈日光観光安全宣言〉

❑4月1日から食品の放射線量新基準値//飲料水10Bq/kg、牛乳50、一般食品100
❖新基準で「厳しくなった」「安心･安全」「危険なものは売らない」との言葉。まだ高い基準です。例えば、飲料水は、アメリカ法令基準 0.111、ドイツガス･水道協会 0.5、ウクライナ2です。放射性物質に安全基準はなく、『危険』です。特に、小さな子、妊婦などはゼロが必要。微々たる食品検査では信用できません。全食品検査と数値明記が必要。
❑河川･湖沼の土壌･底質放射性物質調査/環境省〈2012.03.30発表〉ベクレル/kg
❖川治ダム-湖心/湖畔土壌セシウム計/12800Bq/kg 空間線量/0.40μSv/h
❖五十里ダム-湖心/底質セシウム計/6700 Bq/kg 湖畔土壌セシウム計/4600 Bq/kg
❖鬼怒川、大谷川、男鹿川、川俣ダムでも汚染されています。(数値は後日)
❑原木生シイタケ汚染、日光など16市町に加えて、さくら市、塩谷町へ拡大

☢ 放射能は危険 ☢　放射能汚染地帯で生活続けるチエ

❑全食品、食材の検査が大事です。行政の責任でやるべきです。
基準値以下でも、特に、子ども、女性、若者には食べさせない。汚染ゼロを!
食べるものは、汚染されていない県、地域のものに心がけましょう。
同産地、同じ食品は食べ続けない。全ての放射線量測定をして安全が確認できない中では、汚染されるものを食べ続けないためのチエ。
❑放射能の危険から子どもを守る//高い線量の場所には近づかない。マスクをする。
「保養」「一時避難」「疎開」「移住」などを考える。行政の支援が必要。

脱原発１０００万人署名に協力ください!!

昨年、知人から『署名』をすすめられ、まず、「放射能から子どもを守る」ことが必要と、そのままになっていました。2月末集約で約420万人です．5月末まで頑張るとのこと、「原発」再稼働を許さないために！3月27日現在550万人以上．（tel 26-0130/大島）

❖チラシ･バックナンバー見られます//PDF http://atsugichild.web.fc2.com/
〈日光･放射能から子どもを守る会〉tel･0288-26-0130//nairamdal-1871@dream.jp

野生動物は、足の爪から頭のてっぺんまで
放射性物質検査で自然の汚染実態把握を !!

猟友会日光支部長〈塚原久夫〉

原発崩壊で放射能が飛散した時、3人の孫たちは、親類の福井まで逃げましたが、そう長居が出来ず戻ってきました。放射能から子どもを守ることを考えないといけない。

政府や栃木県は、放射能汚染を徹底して調査すれば日本の経済が成り立たなくなり世の中壊れるのでやろうとしないのでしょう。特に、米と水は、毎日口にするもの。米は、地区ごとに検査すべきですがやろうとしません。

動物の肉は、1．5キロとか、2キロを持ち込み、放射線量測定をしていますが、特に動物の背などの肉はセシウムが溜まらず、筋肉や、内臓に多く溜まっています。本来なら、足の爪から頭のてっぺんまで検査すれば本当の実態が見えてきます。動物は、地区ごとに、オス、メス、年齢で調査しないと、汚染の正確な実態が分かりません。

しかし、県は、なかなかそのように検査しようとしません。私は、やむなく食べるものなので誤魔化すことはできず、自費で放射性物質検査に出しはじめました。また、狩猟の際は、狩猟税(18,300 円)が必要で、その前に徹底した放射性物質検査をしてほしいと県に申し入れましたがやろうとしません。今後、狩猟者が減ることになれば、農作物への被害が増えます。県は、もっと猟友会の存在価値を認める姿勢を持ってほしいです。

猟友会日光支部は11地区あり、距離が70キロも離れています。県が積極的に検体を細かく検査し、地域の汚染状態を知ることが必要です。個人では負担は大きいです。

(塚原さんにインタビューしたものをまとめました)

❑日光市の野生獣肉の放射性物質の検出結果(捕獲日//捕獲場所/セシウム Bq/kg)

2011/猟友会日光支部					2011～12/県保健福祉部生活衛生課			
08.25	鹿	今 市	2037		12.07	猪	小 林	506
09.02	鹿	藤 原	940		12.10	猪	室 瀬	299
09.05	鹿	小来川	590		12.10	猪	猪 倉	527
09.11	鹿	足 尾	180		12.11	猪	今 市	424
09.11	鹿	湯西川	99		12.15	鹿	栗 山	274
09.17	鹿	川 俣	62		01.15	猪	小 林	132.6
09.24	鹿	日 光	420		01.29	猪	足 尾	183.4
11.29	猪	猪 倉	527		01.29	鹿	平ケ崎	181.6
12.01	猪	小 林	506		2012/県環境森林部自然環境課			
12.03	猪	木和田島	424		01.19	猪	小 百	2490
12.04	熊	小 百	934		01.19	鹿	藤 原	44.9
12.24	鹿	荊 沢	88		01.25	鹿	中宮祠	61.2
12025	山鳥	小 百	97		01.28	鹿	小来川	156
資料提供/猟友会日光支部支部長/塚原さん					01.29	鹿	足 尾	127

放射能から子どもを守る

５年後、子どもと笑って過ごしていたいです♪
１２

広聴会//有識者会議は、放射能、健康に影響ないから出発
１００回やっても、もう、意味ないんじゃないの？

○×市在住/仮名 ナナオ

「放射線による健康影響に関する有識者会議」広聴会（2月13日）に出席された方、昨日は大変お疲れ様でした。

事前質問に数問しか答えず、その場での質疑応答もなく、何だったんだろう？と、ストレスがたまっているわたしです。　でも、次へつながるようでよかったですね。

あの有識者のオールキャストの顔を拝めただけ良かったのですかね。。。？

わたしの感想としては、鈴木元さんが、これまでの有識者会議の経過を説明して、第1回目の有識者会議（昨年10/29）で、≪県内の放射線レベルは、健康レベルには影響ないレベルだろうと思っている。≫と、結論づけてしまっているんですよね。

驚いたぁ～！！パワーポイント（スライド）で、上記の内容が赤で書いてありましたよ！！そこから始まっているので、第2回目も、3回目も、100回やってももう、意味ないんじゃないの？って感じました。

獨協×2、自治医大×2、がんセンター、国際医療福祉大の医療関係者だけの有識者って。。。（あと、県の人一人）

＊　＊　＊

『安全な被曝』ってなんでしょう？？？
何がラドン温泉では、10だかなんだか？？
わからないから、検査するんじゃないのでしょうかね？？？
誰だってわからないんですよね？　〈次号に、つづく〉

ドイツから「ふるさと日光へ」 声を届けます

『放射能汚染の中で暮らす子どもたちを憂う』 次号から紹介!!

3月中旬、ドイツ在住の仮名『Baum』さんからメールが飛び込みました。「初めまして、私は日光市民です。震災後ドイツに住んでいますが、今回2週間実家に戻ってきたところ、『放射能から子供を守り1人の被ばく者を出さない』のチラシをたまたま見かけました。日光にもこうした会があることを知ってとても嬉しかったです。私は震災後、放射能のことが気がかりで、インターネットを見ては、『ふるさと日光』のことを心配していました。」との書き出しです。

次号から、メールのやり取りを抜粋して紹介していきます。